

第2回 トラック輸送における取引環境・労働時間改善広島県地方協議会 議 事 録

1. 日 時：平成27年11月27日（金） 13時30分～15時30分
2. 場 所：ホテルメルパルク広島 5F 「桜」
3. 出席者：

若井 具宜	経営コンサルタント（広島県立大学 名誉教授）
三井 正信	広島大学大学院 社会科学研究科 教授
下平 雅文	広島県商工会議所連合会 幹事長代理
綱島 秀之	マツダ株式会社 生産管理・物流本部長代理
宮田 秀雄	株式会社福屋 物流部長
福島 淳仁	株式会社サンエス 管理本部人事部次長
田中 一範	広島県冷蔵倉庫協会 会長
卯野 孝児	日本通運株式会社 執行役員 広島支店長代理
八田 弘明	福山通運株式会社 常務執行役員
竹本 昭法	芸北急送株式会社 代表取締役社長
沖藤 克治	沖藤運送株式会社 代表取締役社長
山根 徹吾	公益社団法人広島県トラック協会 専務理事
三浦 英次	広島県交通運輸産業労働組合協議会 議長
佐渡 克利	中国経済産業局 産業部長代理
倉持 清子	広島労働局 局長代理
山根 修司	中国運輸局 局長代理
小島 博文	中国運輸局広島運輸支局 支局長

4. 開会挨拶：

（中国運輸局：山根自動車交通部長）

中国運輸局自動車交通部長の山根でございます。本日は局長の小川が他の業務と重なりましたので誠に恐縮ではございますが、私が代理で出席させて頂きました。よろしくお願い申し上げます。

まずもって委員の皆様方には大変お忙しい中、本協議会にご出席を賜り誠に有り難うございます。ご案内のとおり、トラック事業の長時間労働を改善していくためには、まずはトラック事業者自らが意識して取り組むことが必要ですが、荷待ち時間の短縮など事業者自らの努力では改善できない部分もあり、荷主の皆様方のご理解とご協力が不可欠でございます。トラック事業者の働き方を変えていかなければ日本経済を支えるトラック輸送が

将来的に滞ることにもなりかねないことから、荷主・トラック事業者、そして行政機関等の連携の下、長時間労働の抑制と取引環境の改善を実現していくために、本年7月に本協議会を設立したところでございます。

本日は第2回目の協議会でございますが、これからの4年間で具体的な成果を出せるようしっかりと取り組んで参りたいと考えております。また、政府は本年6月にデフレ脱却に向けた動きを確実なものにして、将来に向けた発展の礎を再構築する「日本再興戦略改訂2015」を閣議決定致しました。その中でトラック産業をはじめとするサービス産業5分野において、官民合同で活性化と生産性向上を図ることが明記され、安倍総理出席の下、5分野合同で「第1回生産性向上協議会」が開催されたところでございます。トラック分野の生産性向上協議会につきましては「第2回トラック輸送における取引環境・労働時間改善中央協議会」と合同で開催され、取引環境の適正化と併せて生産性向上についても中央協議会で協議をしていくことになりました。

本日の協議会では、先般、中央で開催されました生産性向上協議会の報告や改正労働基準法案の経過報告、長時間労働の実態調査の進捗状況、さらには来年度に実施を予定しておりますパイロット事業に向けた事例紹介等が主となっております。それぞれの議題におきまして、各委員の皆様方からご意見等を賜り、改善に向けた議論を進めたいと思っております。どうか忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げます。簡単ではございますが開会のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い致します。

5. 議題：

(1) サービス業の生産性向上協議会の報告

資料1の説明 広島運輸支局 省略

(2) 労働基準法等の一部を改正する法律案の経過について

資料2の説明 広島労働局 省略

(3) トラック輸送における長時間労働の実態調査について

資料3の説明 広島運輸支局 省略

(4) 荷主及びトラック事業者の取組事例の紹介

資料4（荷主及びトラック事業者の取り組み事例）の説明 広島運輸支局 省略

冊子（荷主企業と運送事業者の協力によるトラックドライバーの長時間労働の改善に向けた取り組み事例）の説明 広島労働局 省略

人材確保を取材した映像「トラガール」の視聴及び議題・映像についての意見交換

議題1～4に関する意見交換は以下のとおり

(卯野代理委員)

日本通運の卯野でございます。最初のカスミさんの事例は 2004 年から取り組みを始められ、2008～2009 年くらいにいろいろと成果が出てきているので、割と長期的な流れの中で改善されたと思えました。

このカスミさんの例と冊子の事例で共通しているのは、WIN-WINの関係という言葉だと思います。荷主企業と物流業者の双方がWIN-WINの関係になるというのが一つのキーワードかなと思えました。荷主企業と物流事業者の部分最適だけでなく、それぞれの枠を越えて全体を補完した最適を目指していくことが重要で、先ほど価値観の共有という言葉がありましたが、長い時間をかけて醸成していかないといけないので 2004 年から 2010 年という年表になっているのかなと思えました。カスミさんの改善活動の中では、ドライバーの時間短縮に労力がかかり、もう一方で荷主側の努力ということで労力がかかっている部分もある。そのように全体で補完していく部分が双方必要であるというように思います。

当社でも何個か細かい事例はありますが、大きく変わるというのは物流が危機的な状況を迎えた段階ではじめて荷主企業が気づき、やっとお互いに歩み寄るという形になることが多いので、そうならないように考えていきたいと思えました。

(八田委員)

福山通運の八田でございます。我々の業界というか当社の場合には不特定多数の非常に幅広いお客様とお取引させて頂いております関係で、先程の物流の改善というよりどちらかという我々の一方的な配達・集荷の時間調整や荷受の応援体制など個々の案件単位で少しずつ改善を進めている状況で、なかなかお客様とタイアップして大きく改善に至っている事例がまだあまりありません。

どうしてもお届けに行ったらこうでしたという事例が多いので、現状は後追いで時間の管理をお願いしているのが実態です。時間の管理を問われている中で、改善を進めていくためにはやはり当社が主体となってお客様をお願いしていくことがこれからもずっと続いていくのかなと感じております。ただ、どちらにしてもここを改善していかない限り安定した物流を作っていくことは非常に厳しいと思っております。

(沖藤委員)

沖藤運送の沖藤といいます。主に福山におきまして製鉄所関係の鋼材等を扱わせていただいております。今も非常に貴重なビデオを見させて頂きました。なかなかトラガールのような女性に活躍して頂くことが難しい状況ではございますが、我々の業界でも出来ればと前から感じております。いろいろな改善の取組と結果を見させて頂きまして、改善のしやすい品種を扱われている運送業者さんと元々重たい重量で機械による積み付けなどを行う業界では異なる部分もあり非常に苦慮するところでございます。女性を活用するためにはどのような環境整備が必要なのかということが重要になってくると

思いますがいろんな意味で参考になる事例であったと思っております。

(竹本委員)

芸北急送の竹本と申します。労働時間の短縮で言うと私どもの会社は加工食品の運送を主にさせて頂いておりまして、今、荷主さんに対してお願いしていることは、センターに持ち込む時間は決まっています、「翌日、午前中までにセンターに納品して下さい。」と言われた場合、積んだ荷物を翌日午前中までに持っていった時点で、例えばまず伝票を先に渡す。その商品の内容をコンピューターに打ち込むことで在庫調整されていると思いますが、実際に荷物が降りる時間は帳票の入力が終わった後になり、行ってすぐに荷降ろし出来ることが少ない。それが繁忙期になればなるほど待ち時間が長くなる現状があると申し上げております。

一番元の商品を出されているメーカーさんはその現状を分かっているんじゃないので、どこまで現状を理解して頂けるかが改善につながるのではないかと思います。それと女性の参画ですが、実際、私どもの会社ではここ1年くらいで女性の応募があり雇用しておりますが、やはりテレビでありましたように、どうしても仕事の流れからすると手積み・手降ろしが必要で体力のある女性でしたら問題なく出来ますが、負担が少なくなるように仕事の流れを変えていかないとなかなか女性の方の定着は難しいと思います。

(山根委員)

トラック協会でございます。先ほどの改善事例をいくつか見させて頂いて思いましたのは、本協議会は全国レベルでやっておりますので、こういった好事例をもっともっといろんな事案についてたくさん提供して頂ければ、トラック事業者側からの提案能力が中小企業にはほとんどありませんので、そのところをカバーしてあげられるのではないかと思います。

(三浦委員)

労働組合の三浦でございます。カスミさんの事例を見させて頂いて、ドライバーと現場の方だけでなく、おそらくその上のクラスの管理職の方々が現場実態を十分把握されていたことからこういった形で教育できたのではないかと思います。女性の活用につきましては非常にうまい使い方をしておられとても感心致しました。こういう事例がたくさんあればあるほど参考にしやすいと思いました。

(綱島代理委員)

マツダ株式会社の綱島と申します。本日は代理出席させて頂いております。私は調達物流部門を担当させて頂いております。本日の改善事例等を見させて頂いて、私自身、

非常に勉強になりました。

当社はさまざまな地域から部品を調達しております。当社の取組として一昨年から社内の一部エリアを拡充してそこに一括して降ろして頂き、そこから先の工場の各部品庫への配送は他の荷物と合わせて必要なものを必要なところに届けるというような形を取ることで荷降ろし待ちが発生しないように改善を進めさせて頂いております。

また併せて、開発部門にもコンカレントエンジニアリングという形で働きかけをしております。部品の設計段階からこういった部品の形状・構成であれば物流量が減るのか、積み合わせがよくなるのかというところを検討しながら部品開発の方を進めております。

環境変化に備える等、我々自身が出来ることについては努力をしているところですが、まだまだ足りない部分が多くあるなど今日の改善事例を見て感じているところです。お願いしている運送事業者様とまだまだコミュニケーションが足りていないなど感じました。

環境変化が今からどんどん激しくなっていくと認識しておりますので、コミュニケーションベースで継続的な改善を図っていかなければならないと考えさせられました。今日はどうもありがとうございました。

(宮田委員)

福屋の宮田でございます。改善しやすい業種ということで、私どもとは若干違いますが、スーパー様の事例等がご紹介されました。実は我々もここ数年に渡り、荷受け集荷業務に対して、運送会社様に大変なストレスを与えていたことを十二分に反省した上で、荷受け集荷時間についてタイムスケジュールをきちっと作成した上で、現在はできる限りストレスを与えないことを実施しているところでございます。まずは、私ども着荷主として各運送業者様とできる限りのご協力をさせて頂きながら、お互いWIN-WINになる関係をこれまで以上に作っていきたいと感じたところでございます。

(福島委員)

福山市の株式会社サンエスの福島と申します。今日、いろいろ勉強させて頂いた中で一番私として面白いなと興味を持った事は、最後にテレビで映し出された取組みです。人材確保という視点で申し上げたいと思いますが、私は新卒採用の責任者として今年の始めから携わっています。学生さんは就職活動の一つとして学校内の企業合同ガイダンスで興味のある企業(ブース)を訪問して、人事担当者から会社概要・求人内容等の説明を聞きます。訪問したほとんどの学生さんの話によると、知っている企業と知らない企業があり、もちろんですが知っている企業をまず最初に就職目標の会社として候補にあげます。逆に知らない企業はほぼ目もくれない。

弊社もそんなに知名度の高い会社ではないですし、広範囲で採用活動しているのです

が、他都市・他県に行ったら全然知られていない。そこで一番大事に思うことは、今日のテレビでありましたように、やはり企業の知名度とイメージなんですね。知名度・イメージというのは世間の皆さまに対して、広く周知・PR活動をすることで形成されます。テレビの中でトラック協会さんがイベントを行われて、そこに親御さんが結構来られていて楽しく過ごされている。そういうのが一番大切なのではないのかなと思いました。親御さんが楽しく過ごされ、その場に連れて来られた子どもさんも楽しく遊ぶ。そして、そこに展示してあるトラックに興味を持たれて、ゆくゆくは就職先・職種候補として考えるような下地が出来るのではないかと。

これからトラック業界の人材確保・人材不足に備えてどのような対策をしていくか大きい問題として着目されていると思いますが、そこには業界のイメージ戦略という目的を継続していくことによって、トラック運転手の人材確保につながってくるのではないかと考えております。

(田中委員)

広島県冷蔵倉庫協会会長の田中と申します。冷蔵倉庫が10℃以下の温度帯を扱う倉庫で、それを超えた10℃超の温度帯を扱うのが普通倉庫です。田中倉庫運輸という会社をさせて頂いており、たまたま広島ではめずらしく冷蔵倉庫と普通倉庫と運送業の兼業者ということで話を聞いて頂ければと思います。

まずは、倉庫という体系でトラックとの接点は入庫と出庫という場面があります。ここで発生してくるのが今の「待時間」ということで、倉庫側からトラック業者さんへお荷物をお渡しするのが遅れるということがまず一つで、出庫側の時間も同じです。入庫側のところを見ますと、どこかで時間待ちされたトラックがおいでになる時間を超えて倉庫側にお着きになるのが倉庫側の「出待ち時間」です。倉庫側とトラック側とが求める時間調整は同じ方向を向いているように感じております。

その中で倉庫側から何を解決するかを考えた時に、我々の方から発信するところは、時間に関する指示は荷主さん発ということで、当然ながら倉庫側の努力不足で出庫が遅れることがあります。このオーダーとの絡みが非常に大きい要因になります。オーダーとの絡みをなんとか解決しようということで、先ほど日通さんからWIN-WINという言葉やマツダさんからもコミュニケーション不足というお話が出ていましたが、なかなか地方の倉庫業者からいろんなお願い事をするのは難しく、残念ながらお願い事で終わるといのが、今の産業構造の中で中小企業の物流業者の立場では辛いところです。

この流れの中で荷主さんも何があるかと言いますとその上にお客様がおりますので、お客様との条件の中で時間が決まります。昔の倉庫は午前中が入庫、午後から出庫と。これはどうということかと申しますと路線バスはダイヤを設けるから安くなるということですが、今やっている運送はタクシーで行っているような運送を一生懸命路線バスの料金で我々の業界は頑張っていますので、こことのギャップが出てきているということです。なおかつ手に負

えないがここに物流子会社さんが入ってきていますので、荷主さんと直接フラットな関係で情報交換が出来ない環境が生まれています。このあたりのいろんなハードルを越えていかないと時間短縮のゴールにたどり着けないのが地場の中小企業の物流の倉庫会社の現状ということでご報告させて頂きました。

(三井座長)

有り難うございました。今、各委員から貴重なご意見を頂いた訳でございますが、いろいろな資料説明やテレビニュースも見て参りましたので、他に全体的なご意見や今の発言に対して何かご意見・ご質問等がありますでしょうか。

(宮田委員)

福屋の宮田でございます。先ほどサンエスさんの人材確保の話の中で、トラック協会さんのイベントを大変評価されておりました。私も非常に良い催しだと感じております。先日、ヤマト運輸の東京にある羽田クロノゲートという最新の物流システムを見学して参りました。見学は1年くらい前から大盛況でございまして、なかなか予約が取れない状況で1年経ってようやく見る事が出来ました。行ってびっくりしたのは小さなお子様から大学生、ご年配に至るまで幅広い年齢層の方にヤマト運輸の正社員が専門的に分かりやすくご説明されていたことです。現場を見せることは大変良いことですが、なかなか物流業者様は現場をお見せにならないと思いますので、トラック協会のイベントにもありましたように来訪者が将来はトラックのドライバーになるよ、ヤマトさんの例で言いますと将来はヤマトさんのSEになりたいと思う人いるのではないかと感じて帰って参りました。皆さまも機会がありましたら是非とも一度ご覧になられたらなと思います。

(小島委員)

広島運輸支局の小島でございます。事務局の一端を担っておりまして、本日も資料や映像をご用意させて頂いたのですが、案外、役所の方にはこのような情報が揃っていませんし、先ほどの女性の雇用につきましても会社によってすべて同じ扱いはできないと思っております。また、前回、本省貨物課長が「地域の実情にマッチした取り組みをやって頂きたい」と発言致しましたように、この中国地方にマッチした取り組みをアンケートの結果や皆様方のご要望・発言をお伺いしながら情報発信させて頂きたいと思っております。中国地方からベストプラクティスな事例として全国に発信できるように頑張っていきたいと思っておりますのでこれからもよろしくお願い致します。

(山根委員)

意見ではございませんが、お礼を一言申し上げたいのですが、サンエス様や福屋様が

ら大変ありがたいお言葉をトラック協会のイベントについておっしゃっていただき、心強く思っておりますので、来年からもしっかり頑張っていきたいと思っておりますが、最初はトラックのイメージアップをしていきたくて始めました。それは中身としては宅配便だけではなく、色んなもの、生活に必要なものや産業に必要なものを90%はトラックが運んでいますということを近隣の皆さま、地域の皆さまに知って頂こうと。残念ながらトラックがテレビで映るのは大きな事故があったときで、そういったのを少しでも払拭したいと始めました。10年くらい前から長期戦略の人材確保ということで、子どもさんをターゲットにして子どもさんによりトラックを知って頂くための中身にしておりまして、例えばお仕事体験というコーナーを設けたり、以前、西武ライオンズが球場に子どもさんを無料で入れて10年後、20年後に増えたということがありますので、私も1人でも2人でもトラック業界に若い人たちが入ってきてもらえるような努力を地道に続けていきたいと思っております。今日はありがとうございました。

(若井先生)

トラック協会さんの映像を見ていて、全国のデータだと思うのですが、トラック業界の労働時間は全産業より長く、賃金水準は全産業より低いことが多くを物語っていると思いました。経団連さんの調査でも業界の6割くらいが赤字を出していると聞いておりますけども、製造業など他の産業では4~5割くらいが赤字と聞いており、これも少しばかり高いと実感を持っています。これらも改善していく必要がありますが、トラックにおいては実態調査の結果が年明けに出てくると聞いておりますので、その実態を受けてまた具体的な議論をしていけば人材確保等の方策になんらかのヒントが出てくると思います。

映像の中で女性活用のテーマが出ていましたし、今、委員の方からもずいぶんその辺についての評価も出ておりましたが、女性を大いに活用する方向が極めて重要なことだと思います。また、定年を廃止するべきだと思いますが、日本という国は田植え社会の伝統があるのか一律一斉にやりたがる。定年を一律にすることは、人事の人から言うとこれほどやりやすいことはない。切ることはいいのですが、意欲も能力もあるのにやめて欲しくない人まで切ってしまうことになる。これを改めていく必要があると思う。資本主義の先進国で、アメリカやイギリスは定年制が基本的でない。それは年齢による人の差別ということで、やはり一歩進んでいると思います。だから私は日本が安易にやっている定年制というものをやめていかななくてはいけないと思うし、貴重な人材を失ってしまう。その他に会社で固定化している退職金やボーナスのあり方を考えていく必要がある。アメリカでは退職金制度はあるが、会社に絶大な貢献をした人だけ出している。今の日本は一律になっている。ボーナスもそう。ボーナスは昔、会社の業績が上がったときにご苦労様という気持ちで出していたものがいつの間にか定期給与と同じように出している。よく働いてくれた人には多く、そうでない人にはそれなりに対応してい

ないと意欲や活力を失ってしまうと思います。

もう一つ、先ほどサンエスの福島さんがおっしゃっていましたが、PRというのも非常に重要だと思います。一般消費者から見るとトラックや物流施設に悪いイメージを持っている人も中にはいるのです。だいが誤解は解けつつありますが、そういう見方をする人が現にいるということはやはりPRしないといけない。日本はPRとか反論をしない国なので外国から誤解されて国益を随分失っている。そういう悪い事例もあるが、先ほどサンエスの福島さんがおっしゃったように、積極的にPRしていく姿勢は大事だと思います。誤解も取れて新しいイメージを持ってもらって、それもまた人材確保や業界の発展にもつながってくると思いますので是非やって頂きたいと思います。

それと労働ですが、国際的な労働比較してみますと非常に興味があるのがオランダなのです。オランダという国は日本でいう正規雇用と非正規雇用の時間当たりの給料の差がほとんどない。つまり、アルバイトで働いている人も正社員としてずっと働いている人も時間当たりの給料に直すとほとんど差がない。日本は差が大きい国である。それはどういうことにつながるかというと、非常に多様な人生の送り方ができるということを意味しますが、トラック業界に置き換えると別の課題が出てくるのかなと思いました。

(三井座長)

私からも一つ付け加えますと、先ほどの女性ドライバーのようなワークライフバランスが今後重要でありまして、トラック運転手もワークライフバランスが大事です。

ワークライフバランスを活用して自分の人生・生活と仕事が両立できれば、若い人も多少給料が低くても働く意欲につながり業界の活性化にもなると思います。やはり人を引きつけようと思うとワークライフバランスが重要であり、これから働く人のために労働時間を改善していく必要がありますし、過労死や過労自殺があってははいけません。やはり事故がなく、安全・安心に製品を時間通りにきちんと届けられるようにしないといけない。ですからみなさんで知恵を出し合って、またいろいろな具体的な発言や個別事例を積み重ねつつ、一つずつ解決していければなと思っております。

(5) その他

(事務局)

第3回の協議会は年度末の3月中旬までには開催をさせて頂きたいと思っております。3回目には実態調査の結果の審議と28年度実施予定のパイロット事業を協議させて頂きたいと思っております。

(佐渡代理委員)

次世代物流システム構築事業費補助金について 資料5の説明 省略

7. 閉会挨拶：

(広島労働局：倉持労働基準部長)

広島労働局の倉持でございます。本日は局長が出張で欠席しております代理で出席させて頂いております。三井先生をはじめ、ご出席の皆さま方には、長時間にわたって熱心にご協議頂きましてありがとうございました。また、トラック協会では実態調査を実施していただきありがとうございました。今日の協議会を聞いております本当にトラック事業者の皆さま、それから荷主の皆さま、トラックドライバーそして利用者全体にメリットがあるように協議していきたいということが伝わってきて本当にありがたく存じております。荷主さんと事業者さんとの間のコミュニケーションを大事にしたいということであるとか、事業者さんの方から具体的な提案をしていきたいということであるとかお聞きしております。労働局でも例えばハローワークの窓口等で求人される方々にいろいろご案内するのですが、その際にこういう改善の例などをお話しできると非常に心強いと思っております。また、監督指導等の際にもこのような好事例、改善例があるということをお伝えすることができるというのはプラスになるのではないかと考えております。この協議会もまた年度末にもう一度ございますが、その際にさらに前に進めるようなご議論をお願いしまして、本日は閉会とさせて頂きたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

以上